

平成 22 年度 環境教育関連事業の実施状況

環境教育を進める取り組みの柱

札幌市環境教育基本方針で定めた 4 つの取り組みの柱

人材の育成	情報の共有・活用
プログラムの作成	機会づくり・場づくり

(1) 人材の育成

札幌市教育センターにおける研修

札幌市教育センターでは、札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的とした研修を実施しており、その研修の中で「教育課題研修コース（環境教育 ～）」や「初任者研修（環境教育の基礎）」といった、環境教育に関する専門的研修コースを設け、学校における環境教育の実践を推進するための教員研修を実施しています。

環境教育リーダー・環境保全アドバイザー派遣 (<http://www.kankyo.sl-plaza.jp/material/>)

「総合的な学習の時間」や市民の環境に関する学習会などへの助言や解説等を行う人材を派遣する「環境教育リーダー制度」と、「環境全般」₁、「都市と環境」₂、「消費生活と環境」₃、「水辺の環境」₄、「自然観察・自然保護」₅、「アイヌ文化と環境」₆、「外国の環境保全」₇、「環境教育」の 8 つの分野の専門家を、市民の観察会や学習会等に派遣する「環境保全アドバイザー制度」を実施しています。

[派遣実績<件数>]

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
環境教育リーダー (登録者数 40 人)	24 件 (1523 人)	19 件 (1220 人)	44 件 (2311 人)	36 件 (1424 人)
環境保全アドバイザー (登録者数 21 人)	38 件 (2604 人)	39 件 (2780 人)	26 件 (2024 人)	20 件 (1554 人)

平成 22 年度は 9 月末時点

総合的環境副教材の教員用手引書 (http://www1.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/tebiki/)

小学生を対象に配布している「札幌市総合的環境副教材」の教員用手引書を作成するため、平成 19 年度の副教材作成ワーキンググループ委員のうち、教員の方々に依頼をして作成しました。(印刷・配布はせず、ホームページで公開しています。)

今後の方針

教育委員会と連携して、教育センターにおける教員に対する環境教育に関する研修を実施していくとともに、環境プラザにおける教員を対象とした研修を引続き行うほか、市民を対象とした各種講座を増やしていくことで、人材の育成を行います。

(2) 情報の共有・活用

環境プラザホームページ

(<http://www.kankyo.sl-plaza.jp/>)

ブログで積極的に情報を提供するなど、昨年度リニューアルした環境プラザホームページを有効に利用して情報提供を行いました。

かんきょう元気通信

(http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/mayor_message/)

昨年度の「かんきょう元気通信」の内容をバージョンアップして、よりイメージのわく写真入りの「メッセージカード」として(昨年は児童会・生徒会あてで318校)市内の小・中学・高等学校の「全クラス」(約5,000クラス)あてに市長のメッセージを届けます。

夏休み前と冬休み前の年2回送付して、休みの期間中など、じっくりと環境活動に取り組んでもらえる「きっかけ」づくりとなるよう期待しています。

第1号(別紙のとおり)を7月に送付し、第2号を12月に送付予定となっています。

かんきょう元気新聞

(http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/wall_paper/)

昨年度に引続き、環境に関する壁新聞を発行しています。今年度は4月に第3号 春号 を発行し、7月に第4号 夏号(別紙のとおり)を発行しました。今年度から対象に4年生を加え、市立小学校4～6年生の全クラスに拡大しています。

発行にあたっては、昨年度に引き続き、高坂委員、三木委員、宮森委員に札幌市環境教育基本方針推進委員会を代表して編集にあたっていただいております。

第5号<秋号>を10月、第6号<冬号>を12月に発行し、第7号<春号>を新年度4月に発行予定です。

「札幌市の環境教育」パンフレット

札幌市の環境教育に係る各種事業については、札幌市の環境保全のホームページ等により市民、企業等に対して周知を図っています。

今回新たに事業紹介用のパンフレットを作成し、このパンフレットを活用して、一層の周知を図りながら、市民の各種事業への参加につなげていきます。

「さっぽろエコスクール宣言」

各幼稚園及び学校が自校における節電、節水、ゴミ減量等の日常的な取組や、教科等における環境に関する学習の様子を「エコスクール宣言」として公表したものを教育委員会がエコスクール宣言校として認定することで、園・学校の取組を地域に示すとともに、取組情報の共有を図り、環境教育の一層の推進を図っていきます。

環境教育に係る実践事例集の作成、発信事業

平成22年度の国の補正予算を活用した重点分野雇用創造事業として、市立の小・中・高等学校における環境活動をはじめ、子どもたちの自主的な活動や地域と結びついた実践などを取材したうえで、特色ある取組や他の学校においても取組可能な優れた内容などを紹介する「環境教育に係る実践事例集」を作成し、学校や地域関係者等にフィードバック・発信し、環境活動の環(わ)を広げていきます。

環境教育関連施設連携事業の実施

市内の環境関連施設（別紙のとおり）の施設担当でプロジェクト会議を開催し、環境プラザを中心として施設間でより一層連携し、情報を共有・活用していくとともに、より効果的な環境教育を行うための事業について検討しています。

環境教育関連施策・事業一覧（平成 22 年度版）の作成

(http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/project/)

環境教育関連施策の進行状況や今後の方向性を示すとともに、札幌市の各部局で行われている環境教育に係る事業について取りまとめた冊子を作成する予定です。(平成 21 年度版、別紙のとおり)

今後の方針

かんきょう元気通信やかんきょう元気新聞などを通じて、環境について考える「きっかけ」づくりを進めるとともに、環境プラザのホームページ、環境教育関連施設の連携事業、そして「札幌市の環境教育」のパンフレットを活用しながら、効果的な情報提供を行っていきます。

また、教育委員会と連携して、エコスクール宣言事業により、学校における子どもたちの様々な取組を情報発信していきます。

(3) プログラムの作成

総合的環境副教材の修正・教員用手引書の修正

昨年度は、ごみ排出ルールの変更に伴った変更の他、高学年ではエネルギー環境教育を取り入れた内容に変更するなど、大きく修正しました。今年度につきましてはワーキンググループ委員と検討し、必要に応じながら改定を行う予定です。(教員用手引書については再掲)

今後の方針

総合的環境副教材・環境教育プログラムの周知を進めていきます。

また、校外学習用バス貸出事業において、学校の授業で活用できるような、環境教育のための校外学習モデルコースを充実させていきます。

(4) 機会づくり・場づくり

校外学習用バス貸出

(http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/bus-rent/)

環境に関する体験学習の場を提供することを目的に、平成 19 年度から小学校を対象に環境教育に関する校外学習用バスの貸出事業を行っています。今年度は、107 校の応募があり、そのうち 89 校で実施する予定です。

応募校数と採用校 校数はのべ数 / () 内は実施校 バス利用台数はのべ数 / () 内はCNGバス

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度(予定)
応募校数	71校	77校	71校	107校
採用校数	44校(43校)	56校(54校)	69校(66校)	89校(78校)
バス利用台数	94台(0台)	115台(23台)	155台(19台)	186台(19台)

校外学習の見学先や学習内容、エコライフレポートへの取り組み率などを考慮し、環境局・教育委員会で採用校を決定

主な見学先(H21年度実績)

	分野	見学先	見学校数(のべ)
1	ごみ減量・リサイクル	清掃工場(白石、駒岡、発寒、篠路)	32
2	ごみ減量・リサイクル	札幌リサイクル団地・資源選別センター	23
3	ごみ減量・リサイクル	リサイクルプラザ、石狩「環生舎」	4
3	ごみ減量・リサイクル	モエレ沼公園、山本処理場	4
5	水とみどり	水道記念館	16
6	水とみどり	浄水場(藻岩・白川)	1
7	水とみどり	下水道科学館	5
8	水とみどり	水再生プラザ、水処理センター	5
9	水とみどり	ダム(豊平峡、定山溪)	7
4	食育	農園(丘珠・新篠津)、さとらんど、北方自然教育園	4
11	自然・生態系	円山動物園	2
12	自然・生態系	ピリカコタン	1

さっぽろこども環境コンテスト (http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/contest/)

小中学生を対象にした、環境活動コンテスト「さっぽろこども環境コンテスト2010」を、11月27日(土)に札幌エルプラザで開催します。今年度は3回目の開催となります。(昨年度の実施報告書、今年度のチラシを別添しております)

[審査員]

審査員長	北海道大学大学院教育学研究院 教授	大野 栄三 氏
審査員	北海道札幌新川高等学校 校長	大川 徹 氏
審査員	消費生活アドバイザー・省エネ普及指導員	宮森 芳子 氏
審査員	札幌市環境局環境都市推進部長	宮佐 直紀

[発表団体]

小学生の部 5団体・中学生の部 5団体(計 10団体)を予定しています。

かんきょうみらいカップ2010 (http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/mirai_cup/)

フットサルなどのスポーツ・レクリエーションを通じて、環境クイズやごみ分別リレーなど、環境活動に楽しく取り組んでもらうイベントを今年8月10日に「きたえる」にて実施しました。今年度は89チーム635人が参加し、昨年度の61チーム414人を大幅に上回る参加者が集まりました。

環境に関する得点の上位チームは、11月23日に開催する札幌ドーム試合の前座試合として、天然芝でサッカーの試合を行います。

環境教育へのクリック募金

(<https://www.kankyo.sl-plaza.jp/bokin/>)

環境教育教材を市内の小中学校に提供するため、環境プラザのホームページにクリック募金サイトを平成17年5月から設けています。平成22年3月末時点の累計で約994万円の募金が集まり、今年度は対象を中学校にも広げ、29の小中学校に小型光電池や手回し発電機などの教材を提供したほか、フードリサイクル実践用として生ごみ堆肥化実験セットなどを環境教育教材の対象として提供しています。

環境プラザにおける総合学習支援

(<http://www.kankyo.sl-plaza.jp/>)

環境教育リーダーの派遣や環境プラザの展示物を活用し、小中学校の総合学習の時間における学習の支援を進めているほか、エコ+1(エコプライチ)というシリーズ物のイベントや児童会館などのイベントへの出張などの自主事業を行っています。

今後の方針

既存事業を充実させながら、次代を担う子どもたちの環境活動の実践に向けての機会づくり・場づくりをより一層図り、環境教育を推進していきます。